# まちの魅力を発信する PRサポーターの:舌動に密着!

以前から、焼きたて手作 りのパン屋[なかぱん]さん が気になっていたという PR サポーターの中里紫乃さん。 取材から投稿までをご紹介



ご協力いただいたのは、幸手 駅前通りにお店を構える「なか ぱん」さん。(幸手市中 2-8-41) お店はご夫婦で営まれてお り、昔ながらの懐かしさを感じ







るパン屋さんです。

「何種類のパンがあります か?」「ご主人のこだわりは何で すか? など、メモを取りながら インタビューをする中里さん。



ご主人から「パンが焼けました よ」と声をかけていただき、焼 きたてのパンの撮影もできまし



今回の取材の内容をまとめ、 Facebook に投稿します。どんな 記事や写真が掲載されたか、ぜ ひご覧ください。

## ◎中里さんのコメント

「なかぱん」さんは、気さくな店員さんが迎えてくれ、 お客さんの声も取り入れている地域密着型のお店だと感 じました。たくさんの人にこのようなお店を知っても らって、広まっていくといいなと思いました。

飲食店など、個人で頑張っているお店や、こだわりを 持ったお店を探して、紹介していきたいと思います。

### PRサポーターの活動にご注目!



PR サポーターの投稿は 幸手市公式 Facebook に掲 載しています。

今まで気づかなかった幸 手市の魅力を知ることがで きます。

## 広島平和記念式典に参加して

8月6日(火)に広島市で開催された広島市原爆死没者慰 霊式並びに平和祈念式に、市が募集した「平和の作文」で 最優秀・特選を受賞した中学三年生6人が参加しました。 平和記念公園の慰霊碑、原爆ドームなどの見学や、被 爆体験伝承者による話を聞くなど、平和の尊さについて 改めて考える貴重な体験となったようです。

ここでは、参加した生徒の感想をご紹介します。

「あなたには決してあの光景は分からない」 景は分からない」 一般爆二世の方の体験談でこの言葉を聞いたとき、とても うではないのだとすぐに気付かされました。 資料館での絵や写真は見ていられないほど酷いものでした。 きっとあの言葉は「分かた。きっとあの言葉はいるでした。 **戦争の傷 戦争の傷 戦争の傷** 

ことは、忘れてはなも出ませんでした。

す。そして、平和な未来になせに伝えることだと思いまことは、忘れてはならない過ことは、高れてはならない過ごれから、私たちができる 実体験から学べること■髙橋 佳太さん(東中)ることを願い続けます。 た。」と被爆二世の方から聞「皮膚が焼きただれていま

私たちが「平

和記念式典への参列を通し被爆体験談や原爆資料館、平 単にうばい、非常になて、改めて戦争は尊い和記念式典への参列 非常に多くの一段争は尊い命を答

たのだとその

増えない

人権推進課金(43)1111 内線 162

 $\mathbf{K}(44)0257$ 

を改めて感じました。
原子爆弾の熱さに苦しんでが強く締め付けられました。
また、私たちと同じ中学生の
また、私たちとは戦争がもた
らしたものはこんなにも悲し
いものなのか、と思うと言葉 参加を通して平和の

を見て改めて平和である大切からお話を聞いたり、直接、からお話を聞いたり、直接、のは接、がらお話を聞いたり、直接、が場体験伝承者の方を実感しました。

原爆資料館の見学、記念式曲 和は、被爆体験伝承講話や 平和への思い

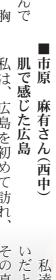
と思

なことをたくさん学ぶこと 実際に話を して原爆

子べないよ普段の生

いっているので、云では多にないと思います。今、被多にないと思います。今、被多にないと思います。今、被のような貴重な体験は滅るというな。 います。 てはならないと感じました。であるということです。 あります。それは、被母的ます。それは、山岡さんのお母さある山岡さんのお母さある。 真っ赤な夕焼けを見るのであるということです。 れ達は夕焼けを見るのであるということです。

話を聞いて、



今回の経験を通して物語ではただいた私たちだからこそ、

このような機会を与えて

味のあることなのかと思いま 学ぶということがどれだけ意 れと同時に、自分の目で見て れと同時に、自分の目で見て で見て が締め付けられる たちの心に一生治ることのな 

問合せ シティプロモーション課**☎**(43)1111 内線 682・M(43)1122